

番号	品名	頁数	遺跡名	番号	品名	頁数	遺跡名	番号	品名	頁数	遺跡名
一	石板「秦益人刻書石」	①	山口市内出土	二七	墨書土器(須恵器)杯「北家」	④	塩田遺跡	五三	須恵器 杯	四点	打越奥山窯跡
二	円面硯(圓脚硯)	一点	本町遺跡	二八	円面硯「伊保田司」刻書	④	塩田遺跡	五四	紡錘車	二点	豆腐町遺跡
三	円面硯(圓脚硯)	一点	阿保遺跡第二地点	二九	木簡(複製品)	③	山垣遺跡	五五	須恵器 横瓶	二点	本町遺跡
四	円面硯(圓脚硯)	一点	阿保遺跡第二地点	三〇	国分寺式軒丸瓦	一点	播磨国分寺跡	五六	須恵器 壺	一点	豆腐町遺跡
五	円面硯(圓脚硯)	一点	御坊ヶ山一号窯跡	三一	国分寺式軒平瓦	一点	播磨国分寺跡	五七	土師器 杯	一点	豆腐町遺跡
六	円面硯(圓脚硯)	一点	辻井遺跡	三二	長坂寺式軒平瓦	一点	播磨国分寺跡	五八	土馬	一点	本町遺跡
七	円面硯(圓脚硯)	一点	本町遺跡	三三	古大内式軒丸瓦	一点	播磨国分寺跡	五九	緑釉陶器 杯	一点	本町遺跡
八	円面硯(蹄脚硯)	一点	本町遺跡	三四	本町式軒丸瓦	一点	本町遺跡	六〇	須恵器 稜枕	一点	本町遺跡
九	円面硯(蹄脚硯)	一点	阿保遺跡第二地点	三五	本町式軒平瓦	一点	本町遺跡	六一	須恵器 杯	二点	本町遺跡
一〇	円面硯(蹄脚硯)	一点	本町遺跡	三六	野条式軒丸瓦	一点	播磨国分寺跡	六二	須恵器 盤	一点	本町遺跡
一一	風字硯	一点	本町遺跡	三七	野条式軒平瓦	一点	播磨国分寺跡	六三	土師器 杯	一点	本町遺跡
一二	風字硯	一点	阿保遺跡第二地点	三八	北宿式軒平瓦	一点	北宿遺跡	六四	製塩土器	二点	本町遺跡
一三	風字硯	一点	本町遺跡	三九	上原田式軒丸瓦	一点	宮ノ浦遺跡	六五	瑪瑙製勾玉	一点	播磨国分寺跡
一四	風字硯	一点	本町遺跡	四〇	上原田式軒平瓦	一点	播磨国分寺跡	六六	墨書土器(須恵器)杯「大」	一点	播磨国分寺跡
一五	風字硯	一点	阿保遺跡第二地点	四一	毘沙門式軒丸瓦	一点	播磨国分寺跡	六七	転用硯	一点	播磨国分寺跡
一六	二面硯	一点	本町遺跡	四二	毘沙門式軒平瓦	一点	播磨国分寺跡	六八	須恵器 杯	一点	播磨国分寺跡
一七	転用硯	一点	阿保遺跡第二地点	四三	鬼瓦	一点	播磨国分寺跡	六九	土師器 皿	三点	播磨国分寺跡
一八	木簡(複製品)	一点	辻井遺跡	四四	土師器 盤	一点	播磨国分寺跡	七〇	鬼瓦	一点	播磨国分尼寺跡
一九	銅印	②	袴狭遺跡	四五	文字瓦「鳴主」「成」「英」	三点	播磨国分尼寺跡	七一	墨書土器(須恵器)杯「上寺」	一点	播磨国分尼寺跡
二〇	石帯	一点	阿保遺跡第二地点	四六	土師器 杯	一点	豆腐町遺跡	七二	須恵器 鉢	一点	播磨国分尼寺跡
二一	石帯	一点	本町遺跡	四七	須恵器 杯	二点	御坊ヶ山一号窯跡	七三	須恵器 枕	一点	播磨国分尼寺跡
二二	開元通宝	一点	安富町塩野出土	四八	須恵器 杯身・杯蓋	一点	見野長塚古墳	七四	須恵器 壺	一点	播磨国分尼寺跡
二三	和同開珎	②	上原田遺跡	四九	須恵器 杯・蓋	一点	本町遺跡				
二四	須恵器 稜枕	一点	本町遺跡	五〇	須恵器 杯	四点	豆腐町遺跡				
二五	須恵器 蓋	一点	本町遺跡	五一	土師器 杯	四点	豆腐町遺跡				
二六	墨書土器(須恵器)杯「三宅」	④	塩田遺跡	五二	須恵器 杯	三点	本町遺跡				

*品名欄下に番号を付した資料は、それぞれの機関から借用したことを記す。

- ①山口市教育委員会
- ②兵庫県立考古博物館
- ③兵庫県立歴史博物館
- ④高砂市教育委員会

二〇〇九年度秋季企画展「律令期の考古学」

会期 二〇〇九年一〇月一一日(日)～二〇一〇年一月一一日(祝)

律令期の播磨

姫路市埋蔵文化財センター

播磨は東を畿内・摂津に接し、山陽道唯一の大国である。律令期には揖保・印南など十二郡に分かれ、さらに八十から百前後の郷が設置されていた。山口県で出土した石板には「飭磨郡因(印)達郷」の名称がみえる。

「和名抄」によれば国府は飭磨郡に所在し、考古学の成果からは播磨国総社を中心とする本町遺跡(姫路市)が有力視されている。郡家については、塩田遺跡(高砂市)が印南郡家に、吉田南遺跡(神戸市)が明石郡家に比定されている。また、漆紙文書や漆壺などが出土した豆腐町遺跡(姫路市)は、国府に関連した官営工房の可能性が高い。

播磨の国分寺と国分尼寺(姫路市)については、国府とは離れるが市川東岸の御国野町に建立されていた。交通については、山陽道に明石駅や賀古駅など九ヶ所の駅家が設置された。この他、いわゆる摂播五泊など海路も整備されたと考えられる。平城京跡からは、中谷窯跡群(加古川市)産の須恵器が出土しているが、これら官道や海路をつうじて都へ貢納品として運ばれたのであろう。



1960年代に山口市内で出土した蛇紋岩の石板で、表面に「飭磨郡因達郷秦益人石」と刻まれる。飭磨郡因達郷は現在の姫路市街地の北部に比定され、播磨国と周防国間の交流を示す貴重な資料である。

国・郡の設置―国府・郡家―

本町遺跡では、八世紀に飭磨郡条里方位から正南北に建替えられた大型建物が検出されている。遺物も播磨国府系瓦や大型の蹄脚硯、石帯の丸靴など官衙的遺物が出土した。塩田遺跡では墨書土器や「伊保田司」刻書の円面硯が、吉田南遺跡では大型の掘立柱倉庫群や銅椀・陶硯などが出土している。一方、飭磨郡などの郡家は未確認である。



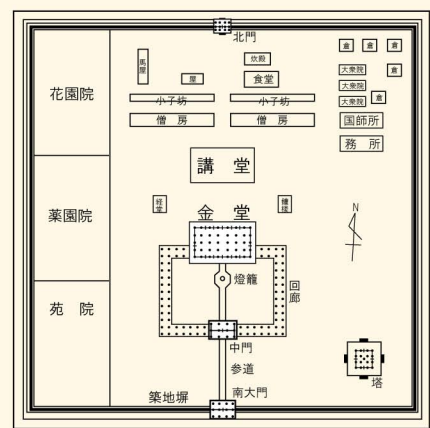
本町遺跡

官寺の建立―国分寺・国分尼寺―

播磨国分寺跡では、発掘調査の結果、二町(約二一八m)四方の寺域中央に南大門・中門・金堂が一直線に並び、塔を南東隅に配する伽藍配置が明らかに。講堂を含む寺域北部の調査が今後の課題である。



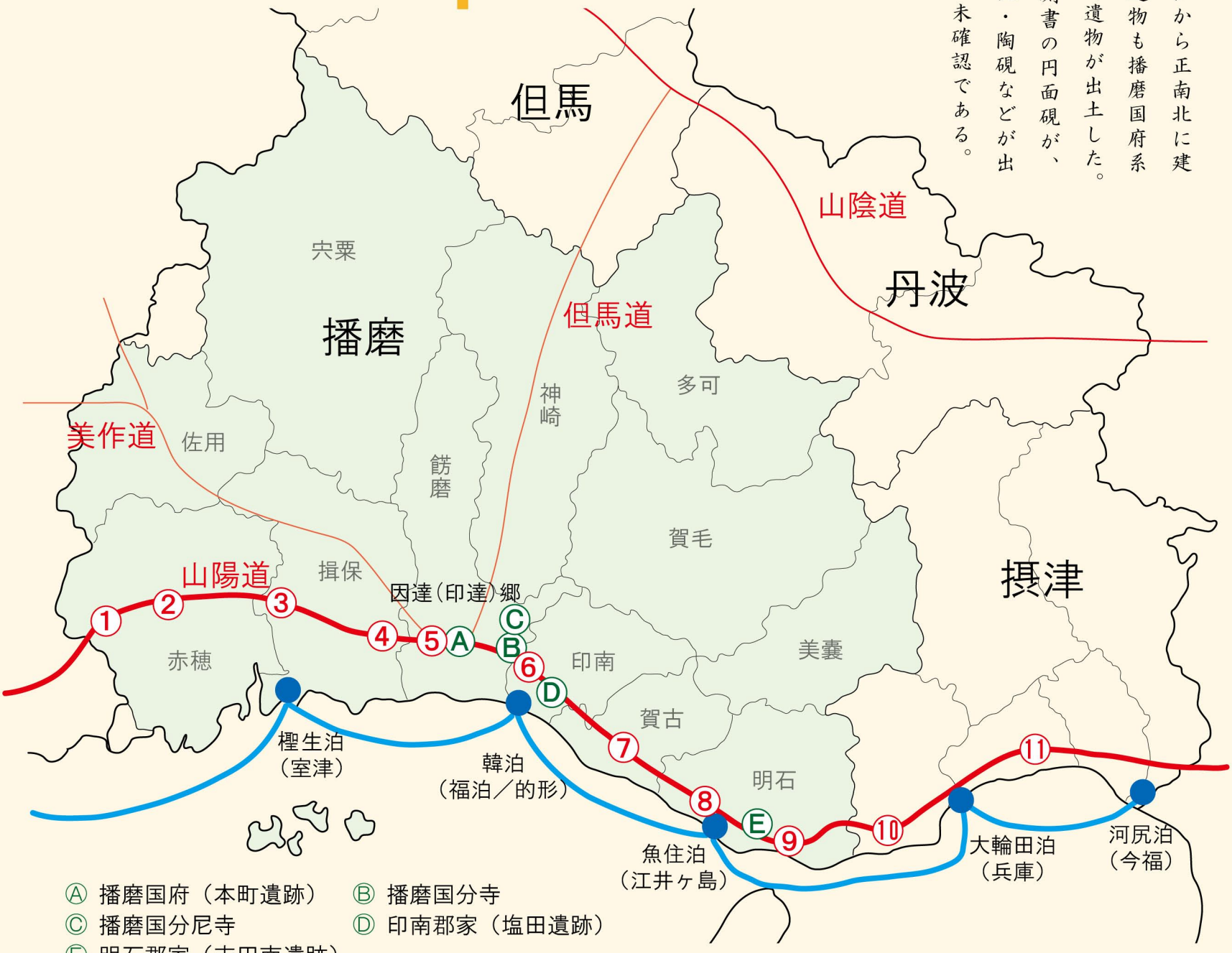
播磨国分寺



播磨国分寺の伽藍配置



豆腐町遺跡出土の漆紙文書



- ① 野磨駅 (落地遺跡)
- ② 高田駅
- ③ 布勢駅 (小犬丸遺跡)
- ④ 大市駅 (太市向山遺跡)
- ⑤ 草上駅
- ⑥ 佐突駅 (北宿遺跡)
- ⑦ 賀古駅 (古大内遺跡)
- ⑧ 邑美駅 (長坂寺遺跡)
- ⑨ 明石駅
- ⑩ 須磨駅 (大田町遺跡)
- ⑪ 芦屋駅 (深江北町遺跡)

- Ⓐ 播磨国府 (本町遺跡)
- Ⓑ 播磨国分寺
- Ⓒ 播磨国分尼寺
- Ⓓ 印南郡家 (塩田遺跡)
- Ⓔ 明石郡家 (吉田南遺跡)

() 内の遺跡名は推定地を含む



正倉院古文書「播磨国郡稻帳」の播磨国印
(『日本古代印集成』国立歴史民俗博物館より)

※復元印を重ねて押してください。

官道と港湾の整備―駅家・撰播五泊―

姫路市内には佐突・草上・大市の駅家が所在した。このうち佐突駅は十世紀頃までに廃止されたとみられる。比定地の北宿遺跡では北宿式の軒平瓦などが出土したが、遺構は確認されていない。布勢駅に比定される小犬丸遺跡(たつの市)や野磨駅とされる落地遺跡(上郡町)では瓦葺の礎石建物跡や築地堀跡が発見され、構造の解明が進んだ。韓泊など撰播五泊については、発掘調査が進んでおらず考古学的な検討は今後の課題である。

1. 本書は平成21年10月11日(日)から22年1月11日(祝)まで、姫路市埋蔵文化財センターで開催する企画展「律令期の考古学」の展示解説として作成した。
2. 本企画展の開催及び本書の作成にあたり、多くの機関・関係者の皆様からご指導、ご協力をいただきました。ここに芳名を記し、感謝の意を表します。(敬称略50音順)
小田正己 岡本健一郎 清水一文 鈴木敬二 千種 浩 中川 渉 藤田 淳 山本 博利 神戸市教育委員会 国立歴史民俗博物館 高砂市教育委員会 兵庫県立考古博物館 兵庫県立歴史博物館 山口市小部文化資料館 山口市教育委員会

姫路市埋蔵文化財センター
Himeji City Archaeological Research Center
〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL (079)252-3950 / FAX (079)252-3952
URL http://www.city.himeji.lg.jp/maibun-center/
E-mail maibun-center@city.himeji.hyogo.jp